

# 1-11

演題	コロナ陽性者が発生
副題	～その時施設看護師として～


法人名	社会福祉法人 たちばな会
施設名	特別養護老人ホーム 天王森の郷

発表者名 (職種)	菅野 千春 看護師等
共同発表者	向井 末子
共同発表者	土淵 幸子
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市泉区和泉町 733
TEL	045-804-3311
FAX	045-804-5005
メールアドレス	tennomorinosato@tachibanakai.or.jp
URL	http://tenmori733.jp

今回の発表施設 またはサービスの 概要	当施設は、横浜市と藤沢市の境に位置し、緑豊かな自然に囲まれた環境にある従来型特別養護老人ホームです。定員 150 名 (本入所 143 名、短期入所 7 名)。地域密着型通所介護・居宅支援事業所を併設しています。
---------------------------	--

## 研究の目的、PR ポイント

コロナのクラスターが発生し、通常と異なるケア対応が余儀なくされた。感染対策を行いながら利用者に合わせたケアとは何か、迅速な終息に向けた取り組みとは何か、振り返りを通し、更なる対応策を講じ検討し、今後に活かしていく。

## 取り組んだ課題

認知症専門棟でコロナが発生。隔離生活を送る事で行動が極端に制限されてしまう為、体力、食欲の低下、ADLの低下に加え、認知機能低下の進行などの問題点に対し、振り返りを通し施設看護師として感染対策を行いながら利用者に合わせた対応ケアとは何かを考える。

## 具体的な取り組み

- 令和3年7月  
陽性者：利用者6名(入院6名)職員1名  
濃厚接触者：利用者14名、職員1名  
陽性者発生から終息まで35日間
  - 令和4年4月  
陽性者：利用者5名(入院4名 施設療養1名)  
職員1名  
濃厚接触者：利用者10名  
陽性者発生から終息まで18日間
  - 令和4年8月  
陽性者：利用者9名(入院3名 施設療養6名)  
職員7名  
濃厚接触者：利用者13名  
陽性発生から終息まで17日間
- クラスター終息後に振り返りを行い、各フロアで各課が参加し、ゾーニングのシュミレーションを実施。

## 活動の成果と評価

クラスター感染対策を繰り返すことで、対応にも少しずつ進歩がみられた。始めは全てが未経験でシュミレーションを行っていたが細かい部分での問題が生じた。例えばゾーニングはどこまでか、隔離と準隔離の区

別はどうするか、食事の運搬方法や物品の補充方法はどうするか、誰が行うか等。実際に訓練では確認できなかった問題点が見えた。それらの問題をクラスター発生後振り返り、対応を一つ一つ繰り返すうちに問題を解決し、次につながる事が出来た。又隔離解除後、できるだけ元の生活に戻れるようエリア内での生活援助を工夫した結果、施設療養されたほとんどの利用者のADLに大きな変化はみられなかった。

## 今後の課題

- 定期的な職員への感染対策の教育、シュミレーションの実施
- クラスターを想定しサービスが最小限で継続できる取り組みを考え、ケアの見直しを行う
- 常に安価で使いやすい物品の確保
- 迅速な初期対応の方法
- 情報が正しく迅速に伝わる方法
- 多職種連携のあり方
- 職員の精神的フォロー体制